

企業経営動向調査

公益財団法人 徳島経済研究所

調査目的	徳島県内の企業動向を的確に把握すること
対象企業	県内主要企業 300社、回答企業 188社、回答率 62.7%
調査対象期間	2018年4～6月期の実績、7～9月期および10～12月期の予想
調査時点	2018年7月上旬～下旬

要約

2018年4～6月期の業況判断(季節調整済)はやや悪化 7～9月期は改善するも、10～12月期は再び悪化の見通し

県内企業(全産業)経営動向調査結果によれば、業況判断 BSI (季節調整済)について、2018年1～3月期と比べ4～6月期(前期→当期: $\Delta 10 \rightarrow \Delta 12$)はやや悪化した。売上げ BSI (同: $1 \rightarrow 3$)、収益 BSI (同: $\Delta 6 \rightarrow \Delta 2$)はやや改善しているものの、自社の業況自体については厳しめに判断する企業が多い現状が示されている。もっとも、過去(2003年7～9月期から2018年4～6月期の15年間)の業況判断 BSI の平均 $\Delta 17$ と比較し良好な水準を維持している。

業種別では、製造業(同: $\Delta 11 \rightarrow \Delta 8$)はやや改善の一方、非製造業(同: $\Delta 11 \rightarrow \Delta 14$)がやや悪化した。

先行きについて、7～9月期予想の業況判断($\Delta 6$)は改善するものの、10～12月期予想の業況判断($\Delta 15$)は再び悪化する見通しである。

注1: 今回調査より BSI の季節調整値を算出。これは、BSI の原計数の動きには季節性があり(年間で売上げが最も多い10～12月期に改善し、最も少ない1～3月期に悪化など)、景気を判断するうえでは季節性を除去した季節調整値の動きをみるのが有用であるためである。なお、内閣府・財務省の「法人企業統計予測調査」でも、平成30年4～6月期調査分から「企業の景況」についての季節調整値を参考値として公表している。

注2: 季節調整は、米国センサス局法 X-12-ARIMA による。

注3: 季節調整は、全業種、製造業、非製造業別々に行うため、今回の前期 BSI のように全業種が $\Delta 10$ 、製造業、非製造業が $\Delta 11$ といった数値になることがある。

2018年4～6月期の設備投資は、実施企業の比率は前年同期からやや低下したが、総投資額は製造業、非製造業ともに大幅に増加し、同54.1%増の約233億円となった。先行き7～9月期の計画も、実施企業の比率は前年同期から低下するものの、金額は同37.9%増の見込みとなっている。

今後1年間の設備投資意欲については、前期と比べ、製造業、非製造業ともやや改善している。

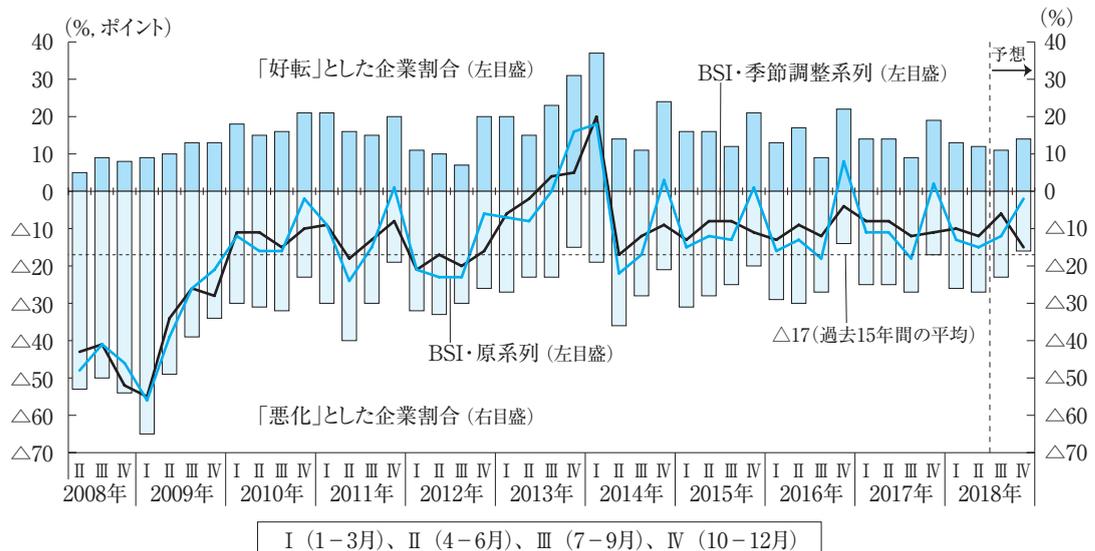
1. 概況
(全産業)

【2018年4～6月期の実績】 業況判断(季節調整済)は前期と比べやや悪化

県内企業の当期(2018年4～6月期、以下同じ)のBSI(業況が「好転(増加)」回答した企業割合から「悪化(減少)」と回答した企業割合を引いた数値(季節調整済))でみると、前期(1～3月期)と比べ、売上げBSI(1→3)、収益BSI(△6→△2)はやや改善の一方、業況判断BSI(△10→△12)はやや悪化となった(上の図表)。景気は緩やかに持ち直しているものの、自社の業況をやや厳しめに判断する企業の多い実態が示されている。

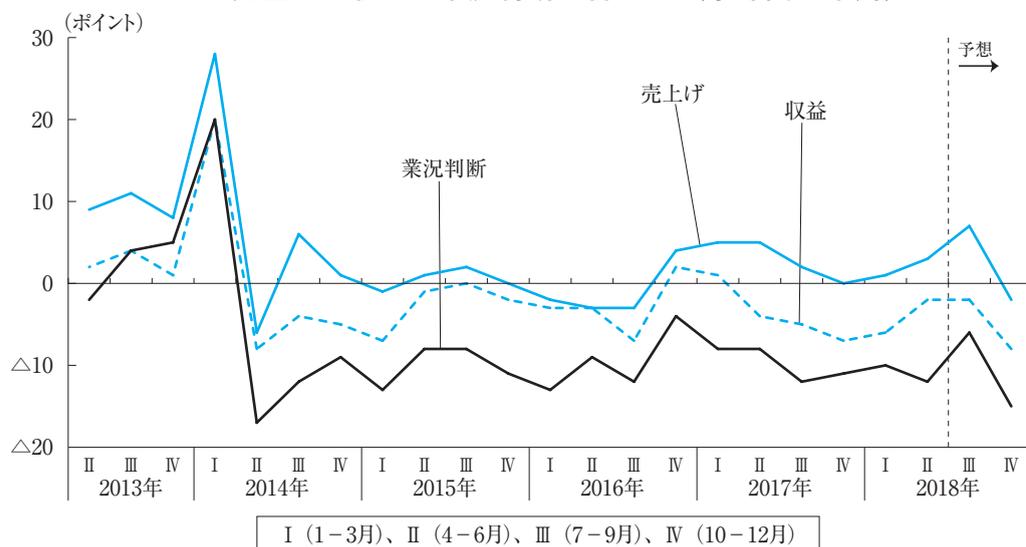
消費税率が引き上げられた2014年4～6月期からの動向をみると(下の図表)、売上げBSIではプラスが多い一方で、収益BSIが総じてマイナス、業況判断BSIはマイナスであった。もっとも、業況判断BSIについては、2003年7～9月期から今期までの15年間の平均(△17)を上回って推移している。

企業経営者による業況判断



注：季節調整は、米国センサス局開発のX-12-ARIMAにより実施

売上げ・収益・業況判断 各BSI(季節調整系列)



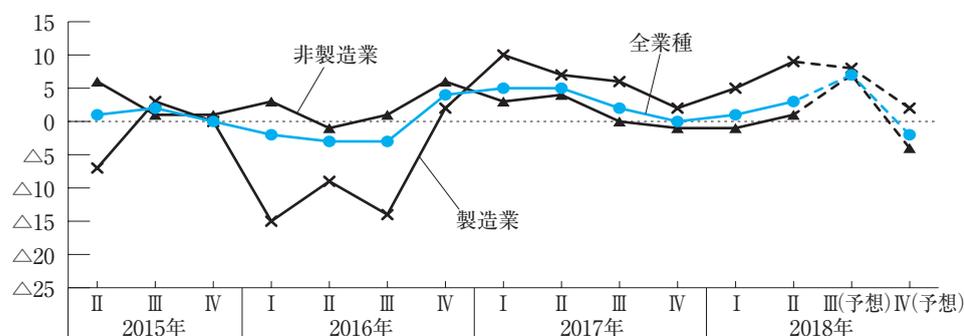
【2018年7～9月期の予想】 業況判断(季節調整済)は改善する見通し

7～9月期の予想は、4～6月期に比べ売上げBSI(3→7)はやや改善、収益BSI(△2→△2)は横ばい、業況判断BSI(△12→△6)は改善する見通しである。景気の持ち直しが続く中、当面の自社の業況についても緩やかに改善するとみている企業の多いことがうかがえる。

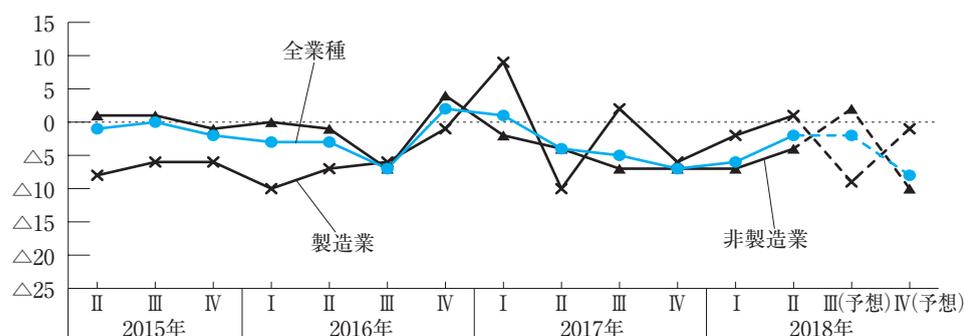
【2018年10～12月期の予想】 業況判断(季節調整済)は悪化する見通し

10～12月期の予想は、7～9月期に比べ、売上げBSI(7→△2)、収益BSI(△2→△8)、業況判断BSI(△6→△15)はともに悪化する見通しである。秋以降年末にかけての予測については、保守的に考えている企業の多いことが示されている。

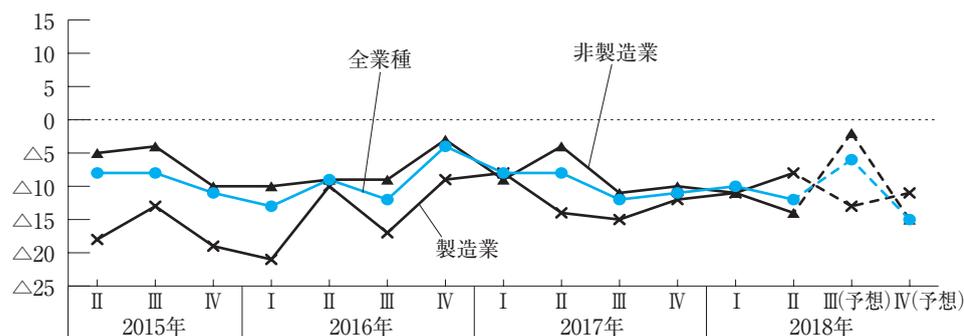
(1) 売上げBSI



(2) 収益BSI



(3) 業況BSI



2. 製造業の動向

【製造業の現状】 業況判断はやや改善

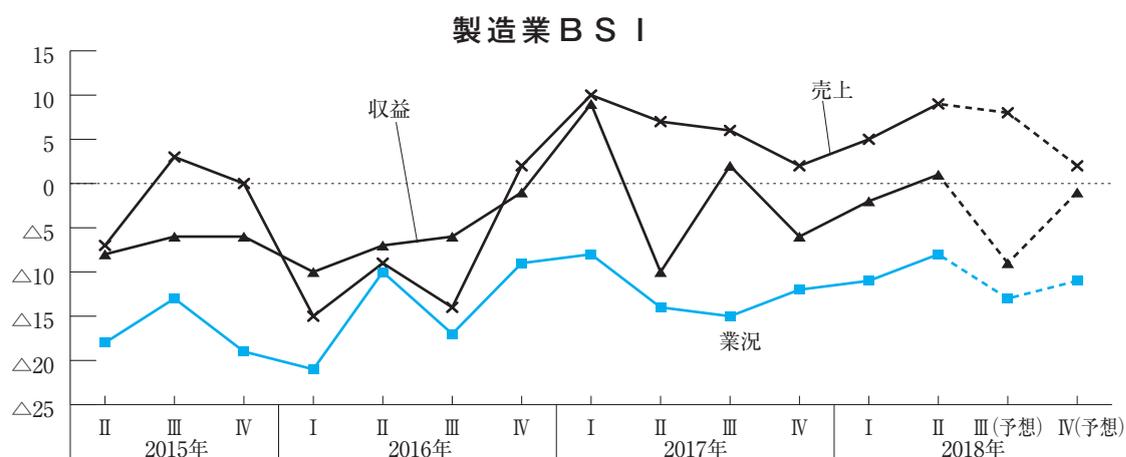
4～6月期は、前期と比べ、売上げBSI（5→9）、収益BSI（△2→1）、業況判断BSI（△11→△8）はともにやや改善した。

特に、業況判断BSIは2017年10～12月期以降3期連続で上向いており、県内産業をリードする化学、機械・金属、食料品などを中心に回復していることが示されている。

【先 行 き】 業況判断は、7～9月期は悪化の一方、10～12月期はやや改善の見通し

7～9月期の予想をみると、当期に比べ、売上げBSI（9→8）はほぼ横ばいの一方、収益BSI（1→△9）、業況判断BSI（△8→△13）は悪化する見通し。

10～12月期の予想は、7～9月期予想に比べ、売上げBSI（8→2）は悪化、収益BSI（△9→△1）は改善、業況判断BSI（△13→△11）はやや改善する見通し。



3. 非製造業の動向

【非製造業の現状】 業況判断はやや悪化

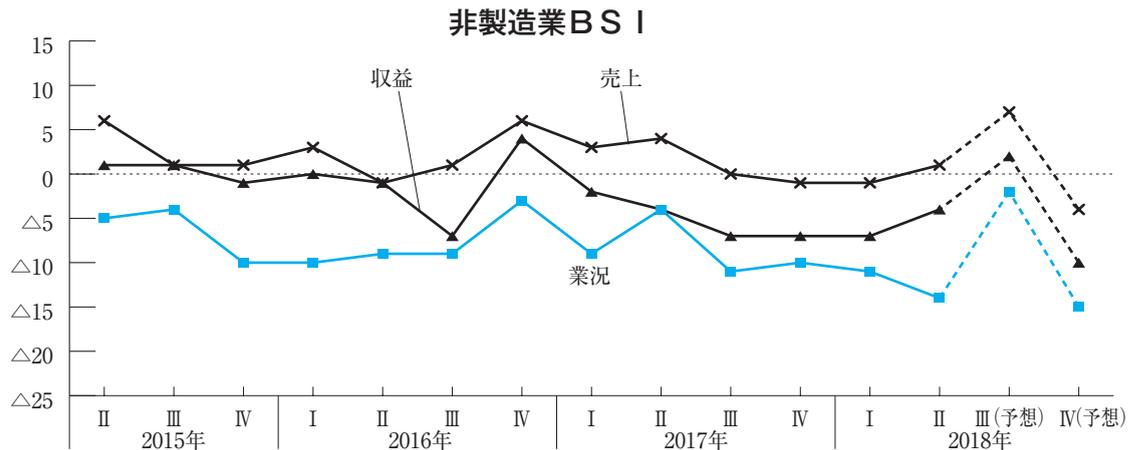
4～6月期は、前期に比べ、売上げBSI（△1→1）、収益BSI（△7→△4）はやや改善の一方、業況判断BSI（△11→△14）はやや悪化した。

特に、業況判断BSIは2期連続で悪化しており、製造業とは逆の動きとなっている。売上げ、収益は改善しているが、業況全般としては満足できない企業が少なからずあることがうかがわれる。もっとも、過去15年の平均（△16）を上回る水準は維持している。

【先 行 き】 業況判断は、7～9月期は改善の一方、10～12月期は悪化する見通し

7～9月期の予想をみると、当期に比べ、売上げBSI（1→7）、収益BSI（△4→2）、業況判断BSI（△14→△2）はともに改善する見通し。個人消費における猛暑効果や公共工事の復調などへの期待が現れた結果となっている。

10～12月期の予想は、7～9月期予想に比べ、売上げBSI（7→△4）、収益BSI（2→△10）、業況判断BSI（△2→△15）ともに悪化する見通し。年末に向けた需要に対して、慎重に見込んでいる企業の多いことが現れている。

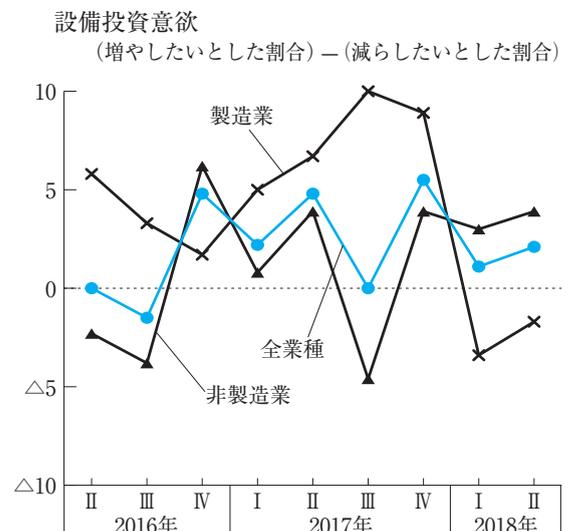


4. 設備投資の動向

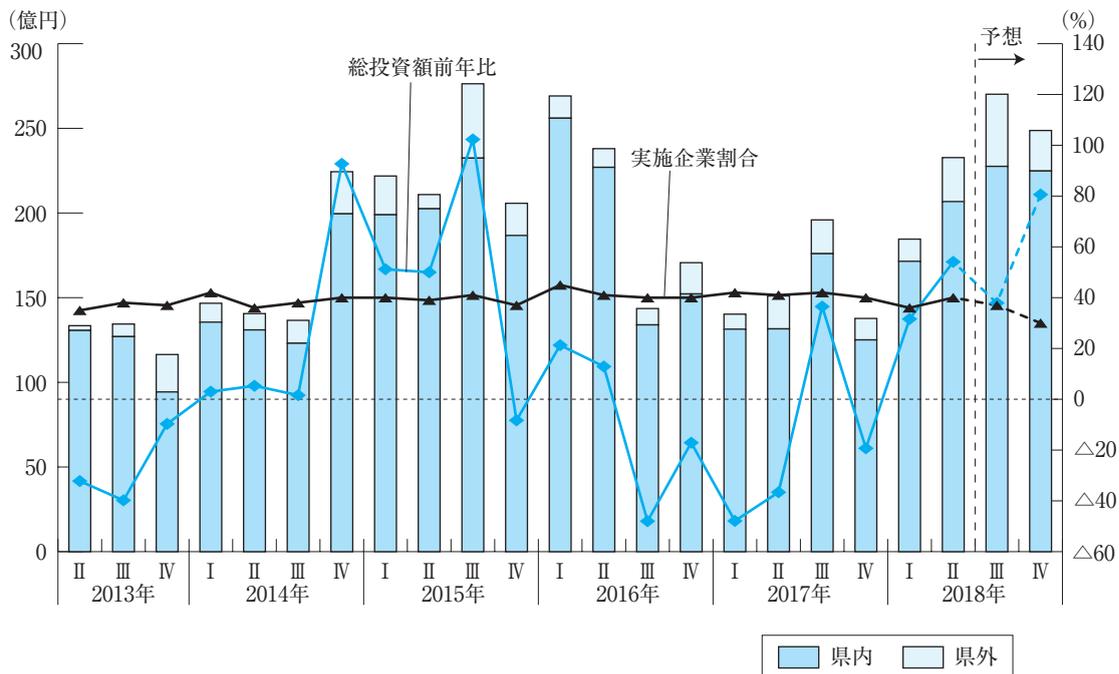
回答企業（全産業）のうち、2018年4～6月期において1百万円以上の設備投資（新リース契約を含む）を実施した企業は全体の40.4%、総投資額は232億円71百万円（県内投資額は206億76百万円）であった。前年同期と比較すると、総投資額は、製造業、非製造業とも増加したことから、全体でも54.1%増となった（前期比でも26.1%増）。一方、実施企業の割合は0.5ポイント低下した。

先行きの計画をみると、7～9月期の実施企業割合は36.7%で前年同期より5.3ポイント低下の一方、総投資額は約270億円で前年同期比37.9%増の見込み。10～12月期の総投資額は、約249億で同80.6%増の見込みである。

今後1年間の設備投資欲（全産業）は、「増やしたい」が16.5%、「減らしたい」が14.4%、「ほぼ変わらない」が69.1%となった。「増やしたい」から「減らしたい」を差し引いた比率（+2.1ポイント）は、前期（+1.1ポイント）と比べ上昇している。



設備投資額（支払ベース）



製造業

当期に1百万円以上の設備投資を実施した企業の割合は、53.3%で前年同期より8.3ポイント上昇した。総投資額は、211億8百万円(前年同期136億3百万円)で、大手電気機械を中心に前年同期比55.2%増となった。うち、県内投資額は195億57百万円(同119億69百万円)となっている。

設備投資を目的別にみると、前期と比べ、「増産・拡販のため」、「既存設備の補修更新」の比率が低下した一方、「合理化・省力化」は上昇となっている。

先行きの計画について、7～9月期の総投資額は約235億円で前年同期比63.6%増、10～12月期は約228億円で同90.8%増の見込みである。

今後1年間の投資意欲について、先行き「増やしたい」とする企業割合(20.0%)が「減らしたい」とする企業割合(21.7%)を1.7ポイント下回ったが、この差は前期よりも1.7ポイント縮小した。

非製造業

当期に1百万円以上の設備投資を実施した企業の割合は、34.4%で前年同期より4.7ポイント低下した。一方、総投資額は21億63百万円(前年同期14億98百万円)で、サービスを除く業種で増加しており、前年同期比44.4%増となった。県内投資額は11億19百万円(同11億89百万円)となっている。

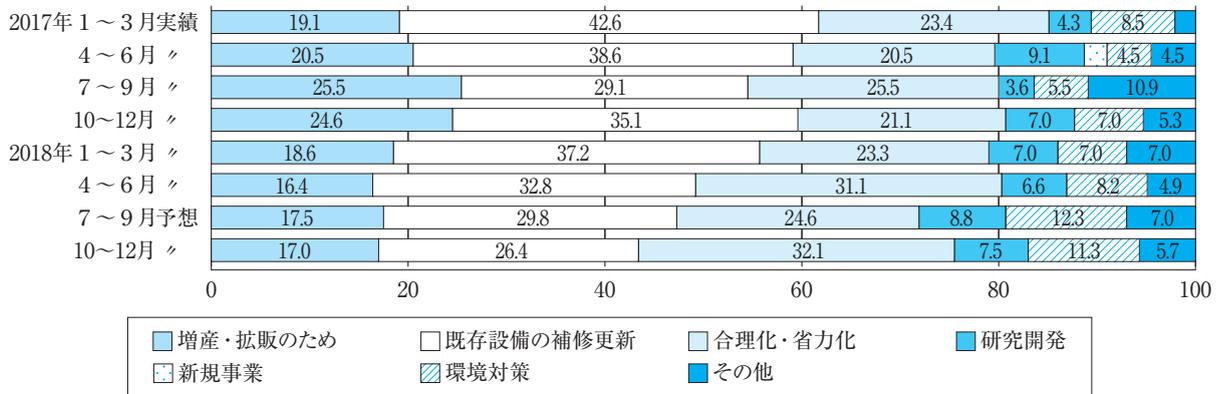
目的別にみると、前期と比べ、「拡販のため」の比率が低下、「既存設備の補修更新」が上昇、「合理化・省力化」はほぼ横ばいとなっている。

先行きの計画について、7～9月期の総投資額は約35億円で前年同期比32.4%減の一方、10～12月期は約21億円で同14.4%増となる見込みである。

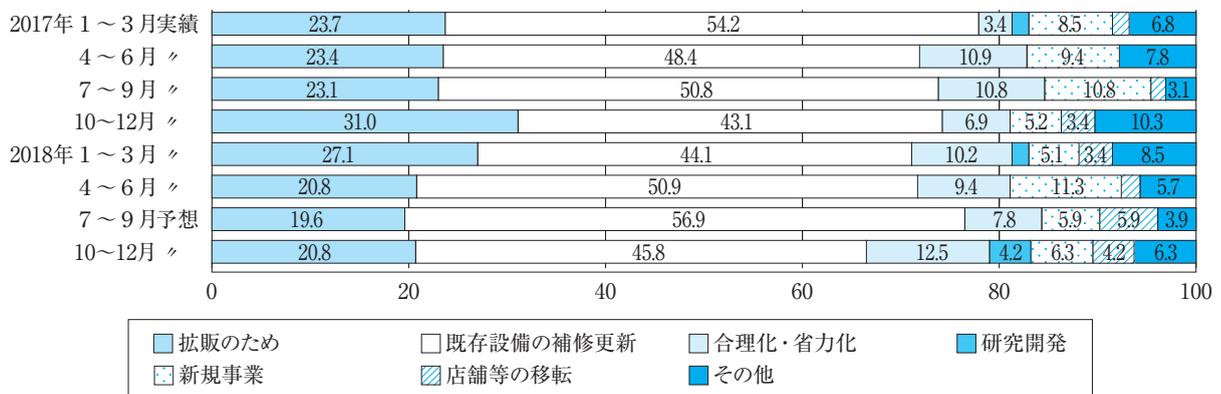
今後1年間の投資意欲は、先行き「増やしたい」とする企業割合(14.8%)が「減らしたい」とする企業割合(10.9%)を3.9ポイント上回り、この差は2期ぶりに上昇した。

設備投資の目的

(1) 製造業



(2) 非製造業



(複数回答)

回答企業の概要

		(社)		
		総数	製造業	非製造業
資本金規模	1百万円未満	0	0	0
	1～3百万円未満	1	1	0
	3～5百万円未満	4	0	4
	5～10百万円未満	2	0	2
	10～50百万円未満	109	29	80
	50～1億円未満	44	18	26
	1億円以上	28	12	16
	計	188	60	128
従業員数	10人未満	17	4	13
	10～30人未満	39	13	26
	30～50人未満	37	9	28
	50～100人未満	30	4	26
	100～200人未満	32	11	21
	200～300人未満	12	7	5
	300～	21	12	9
計	188	60	128	

		(社)	
		業種	回答
製造業	食料品		6
	繊維製品		4
	木材・木製品		11
	パルプ・紙		4
	化学工業		8
	窯業・土石		5
	機械・金属		16
	その他		6
	計		60
非製造業	建設業		17
	運送業		11
	卸売業		36
	小売業		25
	サービス業		38
	その他		1
計		128	
総数		188	

参考資料

B S I

(1) 業況判断

(単位：%，ポイント)

	全産業					製造業					非製造業				
	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI
2016年10～12月実績	22	64	14	8	△4	19	62	19	0	△9	24	64	12	12	△3
2017年1～3月々	14	61	25	△11	△8	15	55	30	△15	△8	13	64	23	△10	△9
4～6月々	14	61	25	△11	△8	10	70	20	△10	△14	16	57	27	△11	△4
7～9月々	9	64	27	△18	△12	8	65	27	△19	△15	9	64	27	△18	△11
10～12月々	19	64	17	2	△11	16	63	21	△5	△12	20	65	15	5	△10
2018年1～3月々	13	61	26	△13	△10	14	55	31	△17	△11	12	64	24	△12	△11
4～6月々	12	61	27	△15	△12	13	69	18	△5	△8	11	58	31	△20	△14
7～9月予想	11	66	23	△12	△6	10	63	27	△17	△13	12	67	21	△9	△2
10～12月々	14	70	16	△2	△15	13	69	18	△5	△11	15	70	15	0	△15

(2) 売上げ判断

(単位：%，ポイント)

	全産業					製造業					非製造業				
	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI
2016年10～12月実績	43	37	20	23	4	40	39	21	19	2	45	36	19	26	6
2017年1～3月々	28	42	30	△2	5	27	43	30	△3	10	29	41	30	△1	3
4～6月々	30	36	34	△4	5	32	43	25	7	7	29	33	38	△9	4
7～9月々	28	43	29	△1	2	30	43	27	3	6	27	43	30	△3	0
10～12月々	40	39	21	19	0	41	36	23	18	2	39	41	20	19	△1
2018年1～3月々	28	38	34	△6	1	29	34	37	△8	5	27	41	32	△5	△1
4～6月々	30	35	35	△5	3	32	46	22	10	9	29	30	41	△12	1
7～9月予想	25	54	21	4	7	27	51	22	5	8	25	54	21	4	7
10～12月々	31	55	14	17	△2	33	52	15	18	2	30	56	14	16	△4

(3) 経常利益判断

(単位：%，ポイント)

	全産業					製造業					非製造業				
	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI	好転	不変	悪化	BSI	季調済BSI
2016年10～12月実績	41	37	22	19	2	36	40	24	12	△1	43	36	21	22	4
2017年1～3月々	27	42	31	△4	1	28	45	27	1	9	26	41	33	△7	△2
4～6月々	22	42	36	△14	△4	20	48	32	△12	△10	23	39	38	△15	△4
7～9月々	23	46	31	△8	△5	27	45	28	△1	2	22	46	32	△10	△7
10～12月々	33	44	23	10	△7	36	34	30	6	△6	32	48	20	12	△7
2018年1～3月々	23	43	34	△11	△6	27	37	36	△9	△2	21	46	33	△12	△7
4～6月々	24	41	35	△11	△2	27	46	27	0	1	23	39	38	△15	△4
7～9月予想	21	53	26	△5	△2	20	48	32	△12	△9	22	55	23	△1	2
10～12月々	28	53	19	9	△8	30	50	20	10	△1	27	55	18	9	△10

(注) B S I = (好転) - (悪化)